

# サイバー大学における AI 共創型の学びのための 生成 AI 活用ガイドライン

2024 年 04 月 04 日：第 1 版制定  
2026 年 04 月 20 日：第 2 版  
(生成 AI の進化および活用シーンの具体化に伴う大幅改定)

## 1. 目的と基本方針

サイバー大学(以下、本学)では「AI 共創型の学び」を実現するため、学生の皆さんには「思考を深めるパートナー」として、生成 AI を積極的に活用することを推奨します。ただし、活用の目的は自らの洞察を深め、主体的に学びを広げることであり、生成 AI による「思考の代行」は認められません。

## 2. 利用基準

生成 AI の利用可否は、以下の「思考の補助・発展」か「思考の代行」かの基準に基づき判断されます。

### 2.1 推奨される活用例（思考の補助・発展）

以下の目的のために生成 AI を利用する行為は、「AI 共創型の学び」を深める行為として推奨します。

- **構成の検討**: 自らの視点で構成したレポート等の論点漏れ確認や視野の拡大
- **反論や質疑応答のシミュレーション**: 自身の主張に対する批判的意見の抽出と論理補強
- **文献や用語の整理・要約**: 複雑な概念等を理解するための要約や言い換え、参考文献の理解補助 のための解説
- **文章の推敲・校正**: 自身が執筆した文章の誤字脱字チェックや論理構成の改善案提示

### 2.2 禁止事項（思考の代行・不正行為）

以下の行為は生成 AI による思考の代行とみなし、不正行為、または評価対象外となる可能性があります。

- 無批判(物事の価値を論理的に検討、評価することがない) な利用: 生成 AI の出力をそのままコピー&ペーストして設問への回答として提出すること
- 主体性の欠如: 自らの視点や考察を加えず、生成 AI が出力した内容のみで構成したり、解答したりすること
- 事実関係の未確認: 生成 AI による架空のデータ (ハルシネーション) の未確認引用
- 出典の秘匿: 生成 AI 利用の明示が必要な場合にそれを行わないこと

### 3. 生成 AI 利用時の判断基準例 : AI 共創型への転換

提出された課題において生成 AI の利用が認められた場合、次のような観点で判断されます。適切な利用に該当する場合は高く評価されることがありますが、逆に不適切な利用に該当する場合は、不正行為に該当する可能性もあります。判断が難しい場合は、生成 AI 利用の明示方法(付録参照)に基づいて報告を求める場合があります。

判断基準	不適切な利用例	適切な利用例 (AI 共創型)
主体性	内容が一般的で、本人の学びが不明	自分なりの解釈や考察がベースにあり、AI がその深化・拡張に活用されている
講義との関連	講義の理論やキーワードが反映されていない	講義の知識と AI の提示した一般論を照合している
批判的思考	生成 AI の回答を鵜呑みにしている	生成 AI から得た情報を基に自身で一次情報・公式情報等を参照している、生成 AI の回答の限界へ言及しているなど、批判的考察がある

## 4. セキュリティと権利保護

利用にあたっては、以下のリスク管理を徹底してください。

- **情報漏洩の防止と知的財産権の保護:**

- 自分や他者の個人情報の入力厳禁です。
- 授業動画・音声、配布資料、小テストや期末試験の設問文、教員や他者の発言内容等をそのまま入力（アップロード等）することは、情報漏洩のリスクに加え、本学または権利者の著作権を侵害する恐れがあるため、厳に慎んでください。特に、評価にかかわる設問文を外部の生成 AI サービスに送信・入力することは、大学の機密情報の漏洩とみなされる場合があります。ただし、自身の理解を深めるため、もしくは課題に取り組むために必要な一般的な用語・概念の入力は、学習の補助として認められます。

- **著作権の遵守:**

- 生成 AI の出力には他者の著作物が含まれている可能性があるため、そのまま利用すると剽窃（ひょうせつ）とみなされる恐れがあります。
- 生成された内容の権利関係には細心の注意を払い、自身の考察と生成 AI の回答を明確に区別して構成してください。

- **情報の精査**

- 生成 AI は、実在しないデータや参考文献を提示する「ハルシネーション（幻覚）」を起こすことがあります。
- 生成 AI の回答を鵜呑みにせず、必ず公式文献等で事実確認を行ってください。

- **提出物の最終責任:**

- 生成 AI を利用して作成された課題であっても、その内容に関する一切の責任は提出者本人が負うものとします。生成 AI の誤答に起因する内容の不備についても、本人の過失として減点の対象となります。

## 5. 運用上の注意

- **教員指示の優先:** 各科目のシラバスや教員の指示がある場合は、本ガイドラインより優先されます。
- **継続的見直し:** 本ガイドラインは、技術の進化や社会情勢に応じて適宜見直しを行います。

## 【付録】生成 AI 利用の明示方法について

教員や大学から「生成 AI の利用プロセスの明示」を指示された場合、本学が推奨する「AI 共創型」の学びを証明するため、以下の要領で報告を行ってください。

### 1. 報告の目的

利用プロセスを可視化することで、生成 AI の回答を鵜呑みにせず、自らの洞察を加えた「AI 共創型の学び」であることを明示し、評価の対象とするためです。※課題出題時に指示がない場合、報告は任意としますが、より万全を期すため、報告を添付することを推奨します。

### 2. 記載項目とテンプレート

提出物の末尾に、以下の 3 点(※対話ログは任意)を記載してください。

#### 【生成 AI 利用に関する付記】

- **利用した生成 AI:** (例: ChatGPT、Claude 等)
- **活用の範囲:** (例: 第 2 章の構成案の整理、自説に対する反論のシミュレーション 等)
- **共創のプロセス:** (例: 生成 AI は〇〇と回答したが、講義資料の内容に基づき××の視点を独自に加筆した、等)
- **対話ログの共有 (任意):** [ここに共有リンクの URL を記載]  
※教員から指示があった場合や、自身の思考プロセスをより詳細に示したい場合に記載してください。

### 3. 運用の注意点

- **教員の指示がない場合:** 科目担当教員から特段の指示がない場合は、報告の付記は任意とします。ただし、課題の提出内容に対して、生成 AI の不適切な利用が疑われる場合は、別途、明示が求められる場合があります。
- **出典の秘匿の禁止:** 構成の大部分を AI に依存したにもかかわらず、その事実を隠して提出することは「思考の代行」とみなされるリスクがあります。判断に迷う場合は、報告を行うことを推奨します。
- **対話ログ (共有リンク) 提出時の注意:** 対話ログの共有リンクを記載する場合は、以下の点に十分注意してください。
  - **個人情報の削除:** 共有リンクを作成すると、そのチャット内容はリンクを知る全員に公開されます。プロンプト (指示文) に自分や他者の個人情報、機密情報が含まれていないか、作成前に必ず確認してください。
  - **リンクの有効性:** 教員が採点を行う際にアクセスできるよう、成績評価が確定するまでチャット履歴を削除したり共有設定を解除したりしないでください。
  - **AI 側の仕様確認:** 利用する生成 AI ツール (ChatGPT、Claude 等) によって、共有リンクの作成方法や公開範囲が異なります。各ツールの最新の仕様を確認した上で、正しく設定を行ってください。